

看護の日

5月27日、私たちは看護の日として、午前中には、震災をテーマに各学年で話し合い、全学年でその内容を共有し、午後は、日ごろ実習や講義等でお世話になっている患者さんや看護師さんへの感謝を込めてボランティア活動を行いました。

午前中のディスカッションでは、今回地震の被害にあった熊本、大分の現状、被害者の思いを感じ、私たちが実際災害にあったときにどのような看護ができるかということについて意見交換を行いました。同じ九州内で起こった身近な出来事として、皆が震災について深く関心を寄せており、多くの意見が交わされました。また、同じ国立病院機構の熊本医療センターの看護学生へ、同じ看護をめざすものとして、ささやかながら励ましの言葉を旗に寄せ書きし送らせていただきました。

午後の掃除ボランティアでは、各病棟の車椅子、点滴スタンドの整備、環境整備を全学年で取り組みました。患者さまが日ごろから使われる車椅子や点滴スタンドをより安全かつ快適に使ってもらえるよう、細かな部分にも細心の注意をはらい、一生懸命取り組みました。

また、患者さんへの贈り物としてティッシュカバーを作成しました。ティッシュは、入院生活の中で欠かせないものです。そのティッシュを華やかにし、患者さんに少しでも元気になってほしいという思いから、看護学生みんなで思いを込めて一つ一つ丁寧に作成し、日ごろの感謝の気持ちとともにティッシュカバーをお渡ししました。患者さまが大変喜んでくださり、私たちもとてもうれしく思いました。

この看護の日では、日ごろの感謝の気持ちをお伝えしたいと思って活動しましたが、患者さんや看護師さんからありがとうという言葉をいただいたことで、一層、私たちは実習や日々の講義・演習で学習を深めていきたいという気持ちがより強くなりました。今回の学びを活かしていきたいと思えます。

都城医療センター附属看護学校 自治会

